



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):10月の報告

海外での感染が疑われる例として、細菌性赤痢 1 件(ネパール)、デング熱 1 件(フィリピン)の報告がありました。海外では様々な感染症にかかる可能性があります。ワクチン等で予防できる感染症もありますので、渡航前に下記のホームページを確認するなど、情報収集を必ず行ってください。

- ・FORTH 海外で健康に過ごすために(厚生労働省検疫所ホームページ) <http://www.forth.go.jp/>
- ・感染症 これだけ知っていれば怖くない!(日本旅行業協会ホームページ) <http://tabitokenko.visitors.jp/>
- その他、腸管出血性大腸菌感染症・レジオネラ症およびアメーバ赤痢各 2 件、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)3 件、クロイツフェルト・ヤコブ病およびバンコマイシン耐性腸球菌感染症各 1 件の報告がありました。

## 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 9 月 26 日～平成 23 年 10 月 23 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>	→	実際の症例数としてはまだ少ないのですが、10 月以降、患者数増加の兆しが見られます。
<u>RS ウイルス感染症</u>	→	今年は例年に比べて立ち上がりが早めのため、例年以上の流行が予想されていますが、10 月時点では、患者数の目立った増加は見られていません。
<u>手足口病</u>	↘	現在もまだ一部地域では警報レベルの流行が続いていますが、市内全体では 10 月下旬にようやく終息といえる状態になりました。

大流行 流行 やや流行 散発 ×市内発生なし  
 増加傾向 → 横ばい ↘ 減少傾向

## 2. 今気をつけたい感染症

RS ウイルス感染症: 秋から冬にかけて流行する、主に乳児がかかる感染症です。まず鼻水から始まり、次いで 38～39 度の発熱、咳が出ます。通常は「普通あるいはひどい風邪」程度の症状で済みますが、高齢者や心臓・肺の持病がある人、免疫力が弱まっている人では重症化することがあります。予防には手洗いが重要です。また、タバコの煙が危険因子のひとつと考えられているため、感染症を防ぐために子供の受動喫煙を避けることも大切です。この感染症に対するワクチンはありませんが、早産児など、感染により重症化しやすいとされる子供には、感染予防としてパリビズマブ(シナジス®)という薬を使うことがあります。

「感染症に気をつけよう 11 月号」は、10 月 27 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

